



板倉勝静筆 扁額「牛麓舎」(個人蔵)

特別展 近世の私塾と教育

10月23日(土)~11月23日(火・祝)

開館時間 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

入館料 一般500円、小・中学生250円

休館日 毎週火曜日 (11月23日(火・祝)は開館)

私塾は主に近世から近代初頭にかけて、芸能人、学者、文人、武芸者などが、学問、技芸、武芸を授けるために自宅を教場として開いた教育施設です。江戸時代前期には幕府の儒官・林家を始めとする私塾が、近世中期以降には菅茶山かんちやざんの廉塾れんじやくや広瀬淡窓ひろせたんそうの咸宜園かんぎえんなどが多くの人材を育てました。

幕末・維新时期にかけては、庶民にも学問への要望が高まり、儒学に替わる学問一国学、蘭学、洋学などを教える塾も開かれ、私塾の数が急増します。藩校などの教育以上を求め、また社会の改革の担い手を育てようとする塾が増えたことが大きな理由として挙げられ、緒方洪庵の適塾はその代表です。

備中松山藩の山田方谷が開いた私塾もまた、幕末の時代性に応じたものと考えられます。方谷が藩政改革に着手して160年目となる本年、方谷が力を注いだ人づくりに焦点を当て、特に私塾で人づくりを行った同時代の学者たちを資料を通して紹介し、江戸時代の教育を考えます。



「板倉松叟公長瀬尊臨図」(個人蔵)

記念講演会「菅茶山と黄葉夕陽邸舎(廉塾)について」

日時：10月23日(土) 14:00~ 会場：文化交流館第2・3講座室

講師：西村直城さん (広島県立歴史博物館主任学芸員)

高梁市歴史美術館 (文化交流館2階)

TEL 0866(21)0180

備中漆の美 — 復興と現在 —

10月22日(金)~12月5日(日)

開館時間 9:30~17:00 (入館は16:30まで)

入館料 一般600円、高校・大学生・65歳以上400円、
小・中学生200円 (20人以上団体は2割引)

休館日 毎週月曜日

※会期中も児島虎次郎作品、化石展示室はご覧いただけます。

「第25回国民文化祭・おかやま2010」が開催される今秋は、高梁市の伝統的産業であり文化でもあった「備中漆」をテーマとする企画展を開催します。

備中漆は、そのすぐれた品質からかつてわが国の漆工芸を支え、多くの素晴らしい作品を生み出してきました。しかしながら時代の変化とともに衰退の一途をたどり、「備中漆」の拠点として知られていた備中町でも昭和39年のダム建設により漆木は姿を消すこととなりました。

今展では、平成6年からスタートした岡山県郷土文化財団と林原共済会による「備中漆復活振興事業」の中で検証されてきた備中漆の歴史と現在を紹介しながら、日本の伝統文化の粋ともいべき漆工芸の魅力を伝えます。



山田松太 乾漆油漆堆錦《礁》個人蔵



難波仁斎《描蒔醬呼月卓》岡山県立美術館蔵

10月22日(金)

オープニングギャラリートーク

講師：山口松太さん (漆芸家)

時間：11:30~ (30分程度)

※無料ですが入館券が必要です。

11月14日(日) 記念講演会と鼎談ていだん (会場：美術館内カフェ)

第一部 記念講演会「漆の魅力」(13:00~14:00)

講師：室瀬和美さん (漆芸家・蒔絵 人間国宝)

第二部 鼎談「備中漆 ものづくりを考える」(14:15~15:30)

講師：室瀬和美さん、山口松太さん、高山雅之さん (林原備中漆復興委員会委員長)

高梁市成羽美術館 <http://www.kibi.ne.jp/~n-museum/>
TEL 0866(42)4455

編集と発行(毎月15日発行)高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

本紙は環境保全のため再生紙を使用しています。

